

1. 教育の責任

大手前短期大学における私の教育責任は、歯科衛生学科の教員として共通教育科目の必修科目および専門教育科目の専門分野に加え国家試験対策を担当することである。また、2020年の歯科衛生学科開講以来、学科長として教育実施の統括を行っており、引き続き歯科衛生学科の統括を続けることも教育責任と考えている。

2. 教育の理念

歯科衛生学科学生の教育においては、情操豊かな教養ある人格の完成を目指し、歯科衛生学を主体とした保健医療に関する専門の知識や技術を教授することが重要と考えている。さらに、医療現場において患者中心の医療を行える歯科衛生士を育成することで、社会の発展に貢献し得る人材を輩出することを理念とする。

3. 教育の方法

1年次の「フォーラム A、B」では、歯科医師や歯科衛生士のゲストスピーカーによる講義や歯科衛生学科卒業生による体験談を通じて、医療人を目指す心構えをもたせた。また、担任クラス学生の個人面談を複数回行い、3年間の学生教育に必要な各学生の性格や特徴を把握するようにした。さらに、図書館で文献を検索し、他の学生の前でその文献に関する発表を行うことで、コミュニケーション能力の育成を試みた。発表には、パワーポイントを使用させた。

「歯科診療補助論」（1年次）、「臨床歯科医学」、「歯科保存学」、「歯科補綴学」（いずれも2年次）は、臨床に即した内容であり、講義では、理解を深めるため多くの動画を使用した。また、歯科衛生士になるのに避けて通れない国家試験対策として、授業終了後に国家試験形式の課題を出し、学生に提出させた。このような課題は、国家試験に合格できる知識と学力の向上に役立つものと考えている。また、2年次の「臨床歯科医学」では、通常の講義に加えて、大阪大学歯学部附属病院よりゲストスピーカーを招き、症例写真や動画を使った臨床に直結する講義を実施した。

3年次の「ゼミナル」では国家試験対策を中心に講義を行った。ここでは、歯科衛生学科教員による国家試験対策講義だけでなく、外部講師によるセミナー・特別講義を実施した。また、国家試験の合格率をあげるため、模擬試験を数回行い、正解率の低い科目を把握した。さらに模擬試験の成績不良者約30名を対象として2024年1月から特別補講を実施した。

各授業では、2023年入学者から必携化になったパソコンを応用することを心がけた。具体的には、大手前学園が独自に開発した学習システムである「エルキャンパス」と「OCNET」が持つ、学生へのお知らせ機能、教材配布機能、課題提出機能を使い授業の効率化を行った。また、歯科衛生学科として、スマートフォン教材である国試対策ネットに加入することで、すべての学生に国家試験の過去問題を使用したドリルを配信することが可能になった。

4. 教育の成果

各学期授業末に実施する授業アンケートにより学生の意見を聞き、できるだけ授業内容に反映させるようにしている。2020年の学科開講時から数年間は、コロナの影響でオンライン授業中心であったが、やはり対面で説明を行わないと理解しにくいことを述べる学生が多かった。対面授業では、授業中に学生を指名して質問することや、学生の意見を直接たずねるといったことが可能になるので、より理解しやすい授業が可能になると考えている。

「歯科診療補助論」（1年次）、「歯科保存学」・「歯科補綴学」（2年次）の課題に関しては、エルキャンパス上で昨年の授業アンケートで学生から要望のあった図を含んだ解答の解説ファイルを添付し公開した。単に文章での解説だけでなく、図を含んだ解説は学生の理解に役立つものと考えている。2024年度は3年次の「ゼミナル」で行った国家試験対策の効果があらわれ、卒業生（2期生）74名全員が国家試験を受験し、全員（100%）が合格した。また、教育関連の研究成果を歯科衛生士教育協議会雑誌に発表した（共著者）。

5. 改善への努力と今後の目標

授業では、2023年に必携化となったパソコンの応用をさらに進めたい。現在は、各授業で授業スライドのプリントを配布しているが、ペーパーレス化を進め、プリント配布は最小限にしたい。歯科衛生士の講義科目は臨床に直結したものが多く、実際の臨床現場で活躍する歯科医師や歯科衛生士のゲストスピーカーによる講義を増やしたい。

授業の改善に役立つFDに参加し、より良い講義方法を学んで改善につながるようにしたい。また、学生は国家試験に合格しないと歯科衛生士の資格が得られない。そこで、国家試験の合格率を上げるため、引き続き国家試験形式の課題や小テスト、さらに期末テストなどを行うことや、国家試験に特化したセミナーや特別講義を実施する予定である。

【添付資料】

・中村隆志, 矢谷博文 (2021) : 第6章 各論IVオールセラミック修復. クラウンブリッジ補綴学 第6版, 医歯薬出版, 東京, 281-290.

教育関連論文

・坂本由紀子, 中村隆志, 木林美由紀, 島崎千代子, 酒井 健, 福井洋子 (2022) : 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大が短期大学歯科衛生学科学生の生活状況に及ぼす影響. 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌, 11, 31-38.

・白水雅子, 小澤純子, 神田恵実, 大島百合香, 中村隆志 (2023) : 青年期の口腔機能の実態と関連要因の検討. 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌, 12, 37-42.

・白水雅子, 栞原涼子, 片野勝司, 小原理恵, 中村隆志, 武田友孝, 中島一憲 (2024) : スポーツ歯学 : 口腔の視点から考えるスポーツ選手の健康管理と外傷予防. スポーツ健康科学誌, 10, 1-6.